

DUBAI 24HR RACE 2015

2005年から開催されているドバイ24時間レースは、2015年に、10年目を迎えました。TEAM930RUSHは、2010年にも、964RUSH号で参戦し、52位完走を果たしています。シリーズは、FIA国際格式の公式レースへ昇格し、世界24HR耐久シリーズとして、世界6ヶ国を転戦するシリーズの1戦となり、96チームが参戦しました。



- ①UAE：オートドロームサーキット
- ②イタリア：ムジェロサーキット、
- ③オランダ：ザンボート、
- ④フランス：ポールリカール、
- ⑤スペイン：バルセロナ、
- ⑥チェコスロバキア：ブラーノサーキット

タイヤは、ハンコック製のワンメイクに変更されました。TEAM 930 RUSHは、997CUP (2009) 3.6Lを駆り、2010年同様にドライバー、メカニックを全て日本から参戦させるという、オールジャパン体制を整えての挑戦となりました。



予選で総合55位（997クラス18位）となりましたが、ここからの挽回を狙います。スタートドライバーを務めたのは松島選手。落ち着いた走り、スタート直後の混乱を避けながらペースを保って走行し、順調な滑り出しを切りました。レース1時間30分を経過した時点で、6速が使えないという不運なギアボックストラブルが襲いましたが、自身の2時間スティントを完了しました。続く滝澤智幸選手にマシンを託しましたが、ミッショントラブルが深刻となり、チームはスペアギアボックスへの載せ替えを決断しました。順位を大きく落とすことになりましたが、諦めることなく完走を目指します。その後ドライバーは、連続最長走行2時間のフルスティントをこなしていき、夜間走行では高田選手と下島選手がミスなしの快走を見せ、メカニック達の顔にも笑顔が浮かんだ。



RUSHは、無事朝を迎えることができました。この頃、ピットにマシンを止めるチームや、クラッシュして運び込まれるマシンが続出していました。そんな中、チームは順調にレースを進め、徐々に順位を上げて行き、滝澤選手がラスト90分を担当し、チェッカーを目指します。最後は、チーム関係者全員がサインボードエリアのフェンスに登り、滝澤選手とRUSH号感動のチェッカーフラッグを見守りました。ミッショントラブルという苦しい局面もありましたが、総合67位（997クラス 15位）で、完走を果たしました。大きな拍手と雄叫びを上げるメカニック達、チームリーダーでもある松島選手の目には光るものが零れ落ちていた。チーム、人種、国籍の壁を越えて、各チームがお互いの健闘を称え合う光景がサーキット全体で繰り広げられる中、熱いドライバ24時間レースは終了しました。メカニックやドライバーや、周りの人々を巻き込んで、24時間集中しレースに挑むヒューマンドラマが、このレースの醍醐味だと思いました。